

「あるべき理想の現場」をつくる。

01

生活を豊かにする
社会が求める商品を提供する

後継者の少ない日本の稲作を、ブルドーザーで救えないだろうか。



*スマート農業での
取り組みを
映像でもご覧ください。

農業ブルドーザー(D21PL-8)を活用した作業風景

建設現場で鍛えられたICT搭載の「農業ブルドーザー」

ブルドーザーで、農業を。農家数が減少の一途をたどり、従事者の高齢化も進んで熟練技術を継ぐ後継者難にも直面する日本の農業。社会が必要とする新しい機械の製作に挑んできたコマツは2013年、創業の地・石川県と連携協定を結び、建設現場で鍛えてきた情報通信技術 (ICT) 搭載の「農業ブルドーザー」の開発に乗り出す。



地上固定局と車体アンテナ、人工衛星を使って高精度な位置情報を解析
農地の3Dデータをモニターに表示



高精度な均平化により
田植えのいらない直播栽培が可能に

スマートコンストラクションの技術が、コメの生産コストを下げる

政府の目標は、2023年に13年比で農業の生産コストを4割減らすこと。ICTを活用するコマツの「スマートコンストラクション」を使えば、ブルドーザーが衛星などと通信して土をならすブレードを自動で細かく制御し、水田を高精度に均平にできる。発芽、成長のバラつきが抑えられ、県と実施した試験では収穫量が向上。農作業用アタッチメントを装着でき、1台で乾田に直に種もみをまく農法も可能に。田植えが不要になることなどで生産コストの4割削減*が実証された。

*従来の移植栽培と農業ブルドーザー+乾田直播+多収米との比較(石川県農林総合研究センター実験結果)



インドネシアで働く農業ブルドーザー



現地オペレーターへの技術指導

視線の先には、アジアの食糧不足

稲作の効率化に動き出したブルドーザー。同じ米食文化を持つアジアにも視線を向ける。2017年にインドネシア政府と湿地ブルドーザーを利用した稲作試験を開始。熱帯の湿地でも沈み込まない特長をもつブルドーザーが、農作業の効率化をもたらした。操作を学べる施設も稼働し、就農者が減少する中、人口増で食料の安定的自給率向上を急ぐ同国を支援する。地雷除去に取り組んでいるカンボジアでも、跡地の新田開発のためブルドーザーが活躍しようとしている。コマツの技術は建設現場も国境も越え、持続可能な社会に向けて進化していく。

製作困難で
未だ経験のないものを
製作する

技術は人なり、
企業は人なり

地方に受けし
寄与に報いん

創業者
竹内明太郎の
思想



コマツの
CSR重点分野

生活を豊かにする
社会が求める商品
を提供する

人を育てる

社会とともに
発展する

本業を通じた
ESG課題解決

●気候変動に対応した
環境負荷低減や安全
に配慮した高品質・高
効率な商品・サービス・
ソリューションの提供

●多様な人材の育成
●ダイバーシティ・イン
クルーバル人材の強化と
育成

●ステークホルダーとの
協業による社会的
課題の解決
●責任ある企業行動



産業技術革新 持続可能都市



経済発展



持続可能都市



気候変動



協業



協業

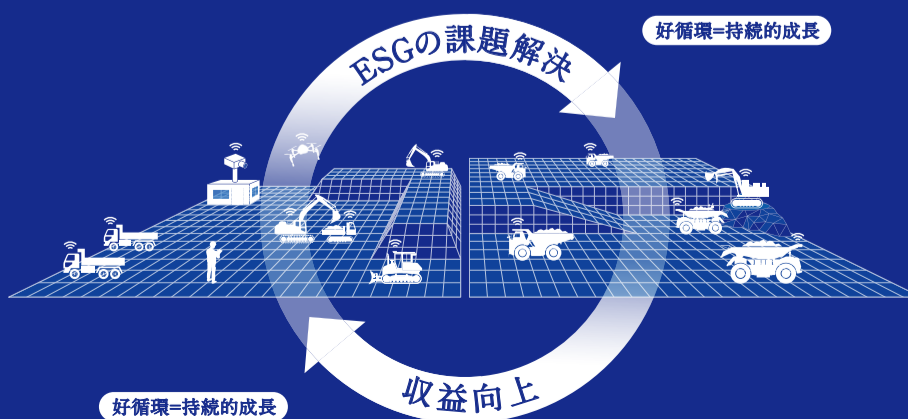
CSR重点分野と
SDGsとの関係

Global Teamwork
KOMATSU

コマツ
〒107-8414 東京都港区赤坂 2-3-6
FAX 03-3505-9662
<https://home.komatsu.jp/>

つくろう、
サステナブルな社会を。
つくろう、
コマツらしいやり方で。

安全で生産性の高い
スマートでクリーンな未来の現場



コマツの
目指すべき姿



代表取締役社長(兼)CEO
小川啓之